

事業所における自己評価結果(公表)

※児童発達支援

公表: 令和3年5月14日

事業所名 八尾市立障害者総合福祉センター

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえ 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	保育する際に危険のないように注意している。利用人数や子どもの特性等により、保育室の環境設定を適宜変更しています。また施設内のスポーツホールやトレーニング室を活用し、子ども達がのびのびと遊ぶことができるようにしている。保育室内は衛生面に留意し、整理整頓、清潔に心がけ、感染症予防対策を行っている。	
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%	職員間協力しながら行っている。保育士、作業療法士、看護職員、職員の専門性を活かし、連携をしながら支援に取り組んでいる。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	100%	0%	すきまや危険な場所がないように工夫している。発達の過程や状況、特性を考慮した環境、遊び込める環境、友達とのやりとりが促される環境、季節感あふれる環境、休息できる環境等、子ども達の生活が安心、安全であるように、環境の構造化について計画している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	100%	0%	その日來所する児童や活動に応じて空間づくりを工夫している。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%	0%	保育士、作業療法士、看護職員、職員の専門性を活かし、連携をしながら支援に取り組んでいる。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%		
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%		
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	100%	0%	センター全体で3年前に第三者評価を受審している。	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	100%	0%	保護者との情報共有に努め、また面談等でニーズを聞き取り、支援計画の作成に活かしている。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%	半年に1回更新している。ガイドラインに記載されている発達の支援(5領域)に基づいて、子どもの発達のアセスメントを行い、子どもの理解と支援を考えている。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	100%	0%	ガイドラインに記載されている発達の支援(5領域)に基づいて、子どもの発達のアセスメントを行い、子どもの理解と支援を考えている。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100%	0%	定期的に職員間で個々の支援計画についてのミーティングを行い、支援の内容を確認している。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%		
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	季節感のあるプログラムに子どもが状況に合わせて取り組めるように工夫している。粗大運動や巧緻性を高める机上活動、戸外保育や季節の行事等年間を通じて子ども達が様々な活動を経験できるようにしている。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで児童発達支援計画を作成している	100%	0%	その日の児童の特性を考え個別保育と集団保育を考えている。集団活動と個別活動の中で子ども達の持てる力を十分に発揮できるように、それぞれの課題に合わせた活動を組み合わせることで支援に取り組んでいる。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%		
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	終了後に限らず、適宜振り返りがなされている。細かい内容でも報告して話し合いをしている。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	日々の記録を取り振り返りに生かしている。	
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	子どもの成長、発達に合わせて、その都度計画の見直しを行っている。		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%		
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	100%	0%	八尾市保健所との連携	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	100%	0%	子どもの生活全般、今後の医療ケアの状況、新たなサービスの提供、進学等の将来に向けての件案、関係機関と連携をしながら支援を進めている。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	100%	0%	また、医療機関とは情報提供書でのやりとりや連絡等を行い、適切な処置や支援ができるように務めている。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	67%	33%		現在のところ、市の児童発達支援センターがその役割を担っているが、必要であれば、今後、連携をしていく。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	67%	33%		現在のところ、市の児童発達支援センターがその役割を担っているが、必要であれば、今後、連携をしていく。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%	0%	保護者の了解を得て、市の児童発達支援センターと連携をし、子どもの情報共有や支援についての助言等を受けている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	67%	33%	公園散歩・遊びで、他園の子と同じ場で遊ぶことがある	コロナ禍のため実施が難しい状況だった。今後、状況が落ち着けばイベント等を通して機会が持てるか検討していく。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	100%	0%		コロナ禍のため会議も中止になることが多かったが、自立支援協議会など開催されたものについては、障がい児通所支援として参加し、協力した。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	連絡帳で、その日の子どもの様子や変化があったこと等お知らせしている。必要に応じて電話連絡や面談等実施している。	
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	0%	100%	ペアレントトレーニングとしては実施していないが、保護者からの相談に応じて、アドバイスを行うなど、保護者支援に努めている。		
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%		
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	100%	0%		
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	送迎時にも保護者に声をかけ話す機会を持つように心がけている	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	33%	67%		会の開催などはコロナ禍のため実施が難しい状況だった。今後、状況が落ち着けばイベント等と同時に進行など検討していく。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%		
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	67%	33%	連絡帳を活用している。活動の様子や行事参加の写真などを保護者に提示し、普段の子どもの生活や遊びの様子が分かるようにしている。	月ごとのお知らせ(活動内容や保育で行っていることなど)を作成し、保護者に内容をより知っていただけるようにしていく。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	100%	0%	書類等はカギ付きロッカーでの保管をしている。シュレッダーの活用など配慮している。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%		
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	33%	67%	コロナ禍の為実施できず。	コロナ禍のため実施が難しい状況だった。今後、状況が落ち着けばイベント等を通して機会が持てるか検討していく。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	100%	0%		訓練等の定期的な実施
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	33%	67%		訓練等の定期的な実施
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	100%	0%		
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	口に入れるものは必ず確認している。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%		
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	67%	33%		研修の定期的な実施
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	67%	33%		箱椅子やバギーのベルト、座位保持椅子等ある程度身動きできない状態なので、状況を説明し計画に記載する。身体拘束に関する承諾をいただく。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。